第１６７回青森県立図書館協議会　会議概要

１　期日

令和５年２月７日（火）

２　開会

午後１時３０分

３　閉会

午後３時

４　場所

青森県立図書館（青森市荒川字藤戸１１９－７）４階　集会室

５　議題

（１）令和５年度の取組について
　①読書バリアフリー法等を踏まえた県立図書館の取組について
　②幅広い世代の県民が訪れる近代文学館の取組について
（２）短期行動指針の進捗状況について
（３）「みなさまの声」に対する対応について
（４）その他

６　出席者等

（１）出席委員の氏名
　大里　公子委員、竹浪　廣美委員、須藤　紀子委員、松井　京子委員、
　浜田　祐子委員、若松　清巳委員、澤田　尚委員、本間　維委員、佐藤　宰委員

（２）欠席委員の氏名
　平井　美史委員

（３）出席した職員
　佐藤館長、清川副館長、佐藤奉仕課長、乳井近代文学館室長
　企画支援課：奈良岡副課長
　奉　仕　課：原田副課長、木村副課長、清水副課長
　近代文学館：竹浪副室長
　教育庁生涯学習課企画振興グループ：北澤社会教育主事

議題に対する委員の主な意見・要望等

１　令和５年度の取組について
①読書バリアフリー法等を踏まえた県立図書館の取組について

〇委員

今年、機器等を更新したり、館内で案内するなど取組を始めているが、反応や反響はいかがか。

■事務局

機器の更新については、以前からの利用者には使い勝手が良くなったということがあるが、新しい機器についてはまだない。紹介コーナーについては、カウンター向かいの待機席や記入席の後ろに配置し、待っている間に視覚障害者以外の利用者でもコーナーを見ることができるため、場所的には良かったと感じている。

〇委員

紹介コーナーは、字が細かくてはっきり言ってあまり一生懸命見ようという感じにならないのではないか。どなた向けに発信しているのか、中途半端な気がする。お知り合いとかお友達、御家族とかに障害を持っている方がいる一般の人に、健常者向けなのか、若しくは館内に来ている障害を持つ方向けなのか。その辺の視点をちゃんとしながら紹介した方が良いのではないか。

２の読書バリアフリーの推進の③の人材育成や、令和５年度以降の取組の中の研修会はどういう方を対象としているのか、具体的に県内にどれくらいそういうスペシャリストというかバリアフリーにかなり詳しい方を育成しようとしているのか伺いたい。

■事務局

紹介コーナーのターゲットについては、御意見を踏まえ今後検討していく。

研修会については、現時点では当館が主催する市町村立図書館等の初任者研修あるいは担当者会議で読書バリアフリーに関するコマを設け、そこで基本的なことや国の法律のことを伝えていきたいと考えている。当館が市町村立図書館に読書バリアフリーに関する機器やアクセシブルな書籍の所蔵状況を確認したところ、やっているところは非常に進んでいるが、結構ギャップがあることから、まずは認識してもらい、必要性を知ってもらうことから始めて、当館の取組も伝えつつ相談に乗っていければと考えている。

〇委員

まずは初任者や担当者の研修会から始めてということだと思うが、かなり詳しく対応しなければ、知識とか技術とかを持ち合わせないと、多分本当に必要な障害者の方に十分なサービスができない可能性があるので少しずつでも良いので、核になる方を、

県立図書館はもちろん、核となる地域の図書館の方々に協力してもらいながらやっていただきたい。

県立図書館でも機器の一部を貸し出しているようだが、なかなか来られない利用者であれば貸出とか予備的な部分で機器を充実してほしい。多分、１日２日とかあまり意味がないのかもしれないが、使い勝手の良い機器の整備をしてもらえると非常にありがたいのではないか。

また、県の視覚障害者情報センターとのきめ細かいやりとりとか、実際どういうニーズがあるのかというのは、センター職員やセンターを利用している障害者の方々が一番よくわかっていると思うので、その辺の連絡なり意見聴取をしっかりしていただいた方が、より良い取組になるのではないかと思う。

■事務局

今後も視覚障害者情報センターとの連絡を密にしつつ、当館のバリアフリーを進めていきたい。

○委員

会議前にバリアフリー機器がどこにあるのか見て、説明もしてもらった。ごく近い友人が視覚障害者で、普段から制限された生活を送っているが、その方を頭に置きながら、どういう使い方ができるのか色々な機器を見た。例えばその友人が、本だったら録音しているものを、ここにサピエ図書館というのがあって、それを利用すれば良いのかもしれないが、それ以外の自分が持っている資料とか自分が読みたい本とか、歌を歌う人なら楽譜を見たいとか、そういう時に携帯型拡大読書器はとても使い勝手が良さそうなものだった。携帯型なので貸出できるか聞いたが、館内ではできるが、それ以外ではできないということだった。そうすると視覚障害者がここの図書館に来るまでを考えても中々難しい話だなと、そしてここに来て利用して便利だった、楽しかった、また次利用しようとなるには本当に気が遠くなるような、ちょっとまだまだ難解だと思った。私達委員が一人一人に裾野を広げていけるよう話をしていきたいと思った。

■事務局

携帯型拡大読書器は今回新たに導入し、今のところ１台しかないので貸出は考えていなかったが、今後そのような需要に応えていくためにも検討していきたい。

なお、デイジー図書再生機は、複数台あり貸出しているので、同様の取扱いができればと考えている。

○委員

確認だが、電子書籍の中で読み上げ機能はなかったか。

■事務局

ものによってはある。

○委員
　それも併せて周知した方が良いのではないか。あれだと家でも使うことができる。

②幅広い世代の県民が訪れる近代文学館の取組について

○委員
　デザイン等について黒石高校や弘前実業高校に依頼し、展示しているということだが、どのように依頼しているのか。

■事務局
　黒石高校の情報デザイン科は、ほかのイベント等でも数多くデザインを連携して行っていることから特別展に関わって制作を依頼した。弘前実業高校は、今年度のファッション甲子園で受賞していたが、企画展で「おめしもの」ということで作家の着物を展示することから、それを踏まえてかつてのお召し物と現代これからのお召し物という関連性を持たせるため展示を依頼した。

○委員
　新型コロナウイルス感染症の影響もあり、高校生だけではないが、生徒が発表する機会が少ない。今年はこういう企画展をするので何かありましたらどうぞと数多くの高校、中学校に案内を出してもらえればと思う。

■事務局
　こちらこそよろしくお願いします。

○委員
　３ページ目の「現状と課題」の「現状の分析」の中で、イベント参加者の年代の割合のうち令和４年度の若年層が比較的パーセンテージが上がっているが、要因について分析しているか。

■事務局
　黒石高校、弘前実業高校との連携がとても大きかったと考えている。特に特別展のデザイン、ポスターは、高校生や中学生が魅力を感じるデザインであり、今回は高校に対し、チラシを教室に掲示してもらうよう依頼した。そのチラシやポスターを見て興味を持ち来館したというのがとても多く、影響や効果はあったと考えている。

○委員
　特別展に協力した高校以外の高校からもポスターを見て来たというのが例年より多く見られたということか。

■事務局
　そのように考えている。

○委員
了解した。

○委員
イベント参加者の居住地の割合について、青森市内が７２パーセント、青森市外が２８パーセントであり、青森市外からの来館者が少ない。令和元年度から４年度のイベント総計として見ていると思うが、令和４年度は市外からの来館者が増えたという傾向は見られたのか。

■事務局
市外の高校に依頼したことで、実際に級友や友達が来館している。

○委員
令和４年度の特別展に関しては、若干青森市外からの来館者が多い傾向にあったということか。

■事務局
そのように考えている。

○委員
令和３年度までと令和４年度を比較すると、上の来館者数の推移だが、いずれも令和４年度は令和３年度を下回っている。その要因は精査しているか。

■事務局
やはり新型コロナウイルス感染症の影響が強いと考えている。来館者数は年々下がっているが、来年度収束すれば、また増加には繋がっていくと考えている。

○委員
令和５年度の特別展「あおもりのえほん」と企画展「あおもり文学食堂」だが、開催時期は具体的に決まっているか。

■事務局
特別展は７月から、企画展は１２月からを予定している。詳しい日程は、ホームページ等でお知らせする。

○委員
近代文学館では非常にチャレンジングな催しを行っている。少しぐらい上手くいかなくても、どんどん新しいことにチャレンジしていただきたい。

２　短期行動指針の進捗状況について

○委員

ＧＩＧＡスクール構想の１人１台端末と学校図書館との連携という話があった。子どもたちはタブレットを持ち、色んな場面で活用しているが、ＧＩＧＡスクール構想と学校図書館との連携でどのような可能性があるのか聞きたい。

■事務局

中々お答えしづらいが、研修会の講師からは、何でも教室で１人１台端末で調べることができると、学校図書館に足を運ばなくなるのではないか、その中で学校図書館に足を運んでもらうにはどうすれば良いか、タブレットと紙のハイブリッドな形、ベストミックスについて現場の実情に応じて考えていく必要があるのではないかとの話があった。これから使いながら考えていくことになるのではないか。

○委員

了解した。子どもたちは、タブレットを使うのがとても早く、動画からの情報も入りやすい。逆に言うと何を調べるのも、ちょっと文字を入れて検索してしまう。事（辞）典を調べないというか、事（辞）典の調べ方さえもわからないとか、ネットの偏った情報だけで調べた気持ちになるとか、ネットで出てくる情報が果たして子どもに分かりやすいのかというと非常に疑問を感じている。

また、長時間、電子的なものに晒されることも子どもの健康を考えると紙に親しませたいという気持ちはたくさんある。図書館も電子図書的なものになるのかと少し危惧したので今の質問をした。やはりハイブリッドというか紙の良さとか本とか、その余白の良さとか何かそういうものをデジタルの時代でも図書館とか学校図書館を通じて子どもたちに伝えていきたいと思っている。

○委員

委員の意見に賛同する。もう少し考えるならば、いわゆるタブレットでなければできないこと、あるいは学校図書館でなければできないこともあると思う。共有部分はもちろんあるが、学校図書館でなければできないことは何かが明確になれば、また違ってくると感じている。

学校図書館のことで、市部では司書教諭も充実して配置できていると思うが、そうでないところや図書の整備率がまだまだ低い学校があったり、あるいはシステムもまだ導入できていない学校があったりだとか、司書教諭は置いても兼任していてほとんど司書教諭の仕事ができないとか、そういった課題もたくさんあると思っている。県立図書館で指導していただけるという話があったので活用したい。

○委員

子どもたちの本離れというか、今はアニメーションとかビデオとかユーチューブとか、そちらに子どもたちが走りがちで、漫画は読むが、本そのものをあまり読みたがらない子どもが多い。本を読ませる楽しさを県立図書館、町の図書館が指導していた

だければ良いのではないかと思っている。
　先日、八戸市の読み聞かせの団体の活動を見る機会があり、英語と日本語の絵本の読み聞かせで、両方で同じ本が出ているはずだが、中々見つけられないとのことだった。そのため、県立図書館で貸し出ししていると伝えたが、そういう活動をしている方でも知らない方も多く、まだ周知されていないのではないかと感じた。各窓口の市町村立図書館から周知されれば良いと思っている。

○委員
　会議前に近代文学館を見た。たくさんの作家の貴重な資料が展示されており、例えば学校関係の遠足や、隣の総合社会教育センターの研修参加者に対し、事前に企画展の開催を周知すれば、少し早めに来て、そちらの方も見てみようかという話になると思うので、そういうお知らせの仕方もしてもらえれば良いと思う。

○委員
　子どもの活字離れについて非常に深刻だと感じている。例えば、子どもが今、一番どんな時に時間があるかというと学童保育に行っている時間だと考えている。その時間は宿題をしたり折り紙などをしている。学校と学童保育が隣接している場合、私は前任校では学校の図書館から本を借りて良いよと話していた。学童保育がそれだけで独立しているような場合、市町村立図書館と県立図書館がリンクして貸出ができるとか、その時自由に見られる環境だと割と子どもたちが活字に触れるということが増えていくのではないか。今後学童保育との連携を考えても良いのではないか。

■事務局
　資料２の５ページにあるとおり、今年の取組の中でも支援体制を強化していくため、国の施策等情報収集に努めてきたが、もっと視野を広げていく必要があると考えている。子どもの活字離れについては、学校教育課とも引き続き連携して取り組んでいきたい。

３　「みなさまの声」に対する対応について

○委員
　みなさまの声に対して、真摯にかつ速やかに対応していると思うが、１か月に１回まとめて対応しているのか。

■事務局
　意見があればすぐ対応するようにしている。

○委員
　普段感じるのは、職員がカウンターの中ばかりにいて、フロアに出て何か困っていそうな利用者にほとんど声がけしていない。是非、ちょっと空きがあればぐるっとでも良いので回ってもらって声がけしてもらいたい。

また、カウンターに来る利用者に対して、「こんにちは」も「おはようございます」もあまりない。「ありがとうございました」もないので、うるさがられてもやってもらえればありがたい。

■事務局

利用者の目線に立ち、すぐできるようなこと、例えば挨拶等については対応して参りたい。

４　その他

〇委員

若い職員の斬新なアイデアや、ベテラン職員の今まで培ってきた経験などを十分活かしながら、新しいことにチャレンジしてほしい。ほかの図書館よりワクワク感がない。いつ来ても同じと思ってしまう。ただ、企画展示のところは結構アイデアを出し合いながら、関係機関とも連携しながらやっていると感じる。上手くいかなくても良いのでチャレンジしてもらいたい。

図書館は、専門性に裏付けられた色んな形のサービスが一番大事だと思う。是非、図書館業務・サービスや世間一般のニーズに詳しい方をどんどん育成し、また市町村の図書館の職員も巻き込み色んな情報交換をしながら、やりがいを喚起し、存分なサービスにつなげていっていただきたいと切にお願いする。

〇委員

県立図書館の企画展示や学習支援セットの貸出は人気があるようだが、市町村立図書館にも学習支援セットの貸出の仕方というか内容的なものを教えてもらえれば、本の利用率もすごくアップするのではないかなと感じた。

「教えて先生！知るしるするる探検隊」では色んな世界の隊長さんを呼び、大変魅力的な活動だと感じている。興味がある子どもは親御さんと一緒に来てくれると思うので、幅広く周知すれば、コロナ禍で親子で出かけられないと言いながらも、面白いのがあれば行ってみようかということになると思うので、もっと市町村にも知らせてほしい。

〇委員

ホームページ等にも載っているが、近代文学館の休館の概要を教えてほしい。

■事務局

天井の照明のＬＥＤ化とガラス張りになっている展示ケース、ウォールケース内の照明のＬＥＤ化のための休館である。

〇委員

これに伴う展示替えはあるのか。

■事務局

皆さんが親しんで来られるよう多少リニューアルの形で迎えたいと思っている。

〇委員

リニューアルの概要を伺いたい。

■事務局

常設展示室の中央展示スペースについて、現在活躍している作家を紹介する機会が中々なかったことから、これまでの作家に加え、平成・令和で活躍している作家も紹介できるようにしたいと考えている。

〇委員

若い人にも訴求できるよう期待している。